



ファンドマネージャー 秋野 充成の AKINO REPORT



代表取締役社長 秋野充成

いちよしアセットマネジメント

FM 今月のポイント (2026年5月)

*4月の国内株式市場は堅調。中東情勢に一喜一憂しながら、TOPIX、日経平均株価が共に反発しています (TOPIX、日経平均の月間騰落率はそれぞれ+6.6%、+16.1%)。特に、半導体・AI関連株に支えられた日経平均株価は、伸び悩んだ TOPIX とは対照的に上昇を続け、下旬には初の6万円大台を突破しました (NT倍率は27日に16.24倍まで上昇)。4月の米国株式市場はNYダウが7.1%、ナスダック総合指数が15.3%上昇しました (NYダウが2ヵ月ぶり、ナスダック総合指数は3ヵ月ぶりの上昇)。牽引役のSOX指数は3月末から18営業日続伸⇒4月の上昇率は38.4%に達しました。米国・イスラエルとイランの戦争は、長期化、泥沼化する可能性があります。ホルムズ海峡の封鎖が続き、原油価格の高止まりは必至の情勢です。しかし、世界的な株高が続いています。なぜ、株式マーケットは楽観的なのでしょうか?⇒「TACO : Trump Always Chickens Out」=「トランプ相場」の経験則が生きているからです。株価が大きく下落する、あるいは、長期金利が大幅に上昇するタイミングでトランプ大統領は常に政策をマーケットフレンドリーに修正しました。対イラン戦争においても、長期化させることなく、米国景気後退、株価暴落には至らないと、マーケットは楽観しているわけです (5月4日の米10年債利回りは、一時、4.463%まで上昇 : TACO発動のタイミングが近い?)。

*もちろん、100%の楽観ではありません。今回の株価反転において、SOX指数がいち早く、最高値をとり、その後も上昇モメンタムが強いのは、今般の想定リスク (原油高⇒インフレ&景況感悪化⇒スタグフレーション) における相対的優位性からです。また、目先の悪材料に左右されることがないAIストーリーの将来展望に投資マネーが集中した結果です。一方で、「供給制約」が懸念されるセクター・銘柄には資金流入がありません。ホルムズ海峡の封鎖長期化により原油供給が制限された場合、頭をよぎることは、コロナ禍で経験した「サプライチェーンの棄損」です。GS サプライチェーン圧力インデックス (世界のサプライチェーンの滞り具合やボトルネックの度合いをまとめて示す指標 : 0が平常、プラス値が大きいと逼迫) を確認すると、現状は0.68まで高まっています (3月31日)。コロナ禍の最高値4.3 (2021年12月31日) と比較してリスク度が高いとは思われませんが、2023年1月以来の高水準となっており、徐々に上昇していることは不気味です。2月末から4月30日までの東証業種別株価指数騰落率をみると、輸送用機器 (自動車) が18.8%下落しています。化学が、4.2%下落。ちなみにTOPIXは5.4%下落、日経平均株価は0.7%上昇し、最高値を更新しています。日経半導体株指数が15%上昇し、日経平均株価を押し上げたこととなります。国内株式市場も楽観を装いながら、しっかりとリスクヘッジしているわけです。当面は、トランプ相場=楽観を装う上昇相場が続くと思われれます。「供給制約」懸念が続き、リスクマネーのAI・半導体関連への集中傾向には変化がないと思われれます。ただし、4月に入っても米国の景気指標に悪化傾向が見られないことから、ゴールドロックシナリオへの回帰が一段と鮮明になることが期待されます。その場合、小型株を含め、景気敏感株への物色の分散が進むと考えられます。国内株式市場の現状は、外国人投資家よりも個人投資家が主導していると考えられ、2月以降の大型グロス株 (AI・半導体関連) 集中物色の横展開が想定されます。小型グロス株に注目です。

裏面をご覧ください。

『 重要な注意事項 』

- この資料は、市場の現状の説明資料の一部としていちよしアセットマネジメントが作成し、いちよし証券がいちよしアセットマネジメントとの営業代理契約に基づいて提供するものです。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられております。
- この資料は、いちよしアセットマネジメントが信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて同社により作成されたものですが、過去から将来にわたってその正確性、完全性を保証するものではありません。
- この資料は、投資の参考となる情報の提供を目的としたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。
- この資料に掲載されたデータ・グラフ等は過去の実績またはシミュレーションであり、将来の成果を示唆、あるいは保証するものではありません。また、記載された見解等の内容はすべて作成時点でのいちよしアセットマネジメントの判断であり、今後予告なく変更されることがあります。
- 投資一任業務による有価証券投資は、株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資運用によって発生する損益はすべてお客様に帰属します。したがって、預貯金とは異なり投資元本が保証されているものではなく、一定の運用成果を保証するものでもありません。

○諸経費および投資リスクについて

- 投資顧問料については、契約資産に対して年金料率で最大0.4536%(税込み)の報酬をいただくこととなります。また、契約により所定の成功報酬をいただく場合があります。その他売買手数料等の間接的な経費がかかりますが、経費の総額については委託した証券会社により手数料率等が異なるため、上限額等を表示することができません。
- お客様のために行う取引については、株式、新株予約権付社債、公社債等の有価証券に投資しますので、国内外の経済・政治情勢、金利変動、発行体の業績や財務状況等の変化の影響により、投資した有価証券の価格が下落し、損失が生じるおそれ(外国証券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれ)があります。
- 信用取引やデリバティブ取引を行う場合は、差し入れた証拠金等の金額以上の取引を行う可能性があるため、原資産となる有価証券や指数等の価格変動により、差し入れた証拠金等を上回る損失が生じるおそれがあります。また、デリバティブ取引等の額の証拠金等の額に対する比率は投資方針や市場の動向等により変化するため、その比率を事前に示すことができません。
- 諸経費およびリスクについての詳細は、契約締結前交付書面をよくご覧ください。

商号等： いちよしアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号
加入協会： 一般社団法人 資産運用業協会